



本日のプログラム 第2248例会 令和元年11月7日
 ソング：君が代 奉仕の理想
 行事：R財団セミナー報告 米山奨学金授与 諸事御祝
 第2247回例会 令和元年10月17日の記録



会長の時間 糸川佳男 会長



皆様こんばんは。関東中心に台風の被害がありました。河川の決壊にて大変な被害が出ています。長野県など、台風などは無縁のところのようで、50年あまり何もなかった地域での被害。今後、一次産業、観光など影響が出てきそうです。知り合いの工場も、河川の決壊で工場に水が入り設備が使用できなくなり生産が全くできない、今後の予定もたたない。製造機械は別注の設備が多く、作るためには1年以上かかるものもあります。観光地でも被害がありました。明日被害のあった、静岡県箱根、沼津などお見舞いに行ってください。農作物の被害ではイチゴの被害（クリスマスケーキ間に合わない）、台風などの天災について保険でどこまで対応でき

るかメンバーの森本君に今後、卓話をお願いしようと考えています。実際に被害にあった場合、命の次に生活するためお金も大事になってきます。2011年のこの地域の台風被害を思い出しましたが、この危機管理が大切になってくると思います。今回の卓話は NPO 法人あそぼらいつ、子供ステーションくまの、御浜 理事長でもある、黒瀧君です。経歴ですが小学生の学校終了後の教育、子供の悩み、問題、虐待、遊びを通じて、子供の教育を行い地域の貢献をしています。リトルファーマーズ農場ではお米や卵を生産し、食育の活動を行っています。酒が入るととても陽気になり、サービス精神旺盛の彼ですが、スタッフが100名以上の人を束ねて熊野の地域の子供たち、その親についてのサポートを全力で行っています。会員の皆様 今日も出席ありがとうございました。

幹事報告 中西政貴 副SAA

- ▼津、桑名北、伊勢、桑名西ロータリークラブより例会変更のお知らせが届いております。
- ▼ガバナー事務所より第7回日台ロータリー親善会議福岡大会のご案内が届いております。
- ▼地区事務所よりクラブ増強報告書が届いております。
- ▼津ロータリークラブより日赤三重県支部点訳奉仕団への資材贈呈についてのご報告が届いております。
- ▼松阪山桜ロータリークラブより IM 参加のお礼状が届いております。
- ▼ハイライトよねやま235号が届いております。
- ▼東日観光株式会社より2020年国際ロータリー年次大会（ホノルル大会）への参加旅行募集案内送付のご案内が届いております。

外来卓話 NPO 法人あそぼらいつ理事長 黒瀧一輝様



【子ども虐待から見る社会のようす・・・】

子ども虐待に、減少傾向は見られません。三重県の虐待相談対応件数を見てもわかるように増加の一途を辿っています。全国的にも同じ現象が見られています。最近の傾向では、心理的な虐待が多く、核家族や夫婦のあり方の多様化により、夫婦喧嘩からの面前DVも多くなっています。と言っても、ここで定義されているような虐待はずっと昔から存在していたことも事実です。昔でいうと、折檻・体罰・圧迫・徒弟労働・酷使・口べらしなども、虐待であったと思います。

虐待という言葉は、時代背景と並べると誰もが、口や心に蓋をしたい事象だと思います。昔の日本では、貧困からくる様々な要因で力のない子どもが今の人権感覚では想像しづらいことを大人によってされてきた事実は、筆舌に尽くしがたいものです。ただ戦後から経済成長期・平成不況の時代を経ていくうちに、豊さの中の競争心などから、子どもを「素晴らしい人間にしたい」という大人の非現実的な人間観を、我が子や社会の子どもたちに求めることで、個人やその家族が将来の安定や安心を求めるようになり、教育やしつけの名の下で子どもに大人の「重い想い」を被せ強いてきたと感じています。私が育った時代は、「キレる17歳」という言葉が流行りました。また、「就職氷河期」「受験戦争」などという言葉もよく耳にしました。昔は、地域のコミュニティの中で経済的に苦しくても、どこかに居場所があったものですが、今では、お金があっても安心できる場所や空間や時間もなく、人との触れ合いを感じる関係性も貧困となっている状況が鑑みられます。「家庭を居場所にできない『虐待』。」「学校を居場所にできない『不登校』。」「会社などを労働の場にできない『ひきこもり』。」など社会に存在していた「きずな」や「共同体」が変化し、人が生きるために必要な安心がえられない人も多く見られます。私自身も、時々によってはそうかもしれません。虐待はいじめとイコールです。弱いものを貶めたり、弱いもの弱さをみたり感じたりすることで、ほんの一瞬でも自分が正しいと思えたり、優位に思えることが動機の根底にあると思います。自分が得たくても得られなかった愛情。それを子どもが手に入れることへの嫉妬心。今の自分が苦しんでいるとき、自分より弱いものへ向かう事への安堵感。それらが、子どもをいじめ、「虐待」へと向かわせてしまうと考えています。社会の中で、「いすとリゲーム」に勝てなかったことや、日々投げかけられてきた現実とはかけ離れた「期待」の言葉、自分の力を図ることさえできない否定感。空虚感。そういった気持ちなぜこの社会で育っていくのだろうといつも考えています。自分自身の経験もふまえて。人は、経験や体験した以上の

ことは、できません。できるとしたら突破性的なものや、偶然なんらかの要因が重なった時です。その時、その時代の親も自分の育ちの中で、感じ淘汰し血肉にしてきたものが「かけ離れた期待」や「無言のプレッシャー」であれば、次の世代と向き合う時には、それ以上のことはできません。ですが、現代の経済社会は、次世代やこれからの社会はより良いものを求め続けます。「足るを知る」ことや、今よりもっと豊かにすることを求めます。これだけ、価値観が多様化し、多数化している社会で、人は、なぜ多くを求めるのでしょうか。今あること、今生きていることや、何かと関わり感じあい自分を営めることができることに、幸せを感じるようになるものかと日々感じています。幸い、今、私たちが生きる時代には、「子どもの権利条約」というものがあります。この条約には、子どもにも基本的人権を認めることが約束されています。子ども自身の自己決定や意見表明など当然人にもたらされている基本的人権が子どもたちにも保障されています。大人はそれを保障するために「子どもたちに最善の利益」を考え、それをもたらし行動をすることが求められています。それらを日々、生活の中で見つめることで幸福を感じ、生きるベースが育ち、社会の中で生産活動や、自分の生き方を見いだす意欲が人の中で生まれるのではないのでしょうか。今この社会にいる「いじめ」や「虐待」などをしてしまいそうになっている大人に気づいたら、その人の社会的排除感や孤立感を色んな人が関わり、社会的に抱擁し包みこんでいくことが大事だと思います。まずその人自身の安心や生きる権利を保障することで、子どもの権利が生きてくると思っています。熊野市は、全国屈指の少子高齢社会。少ない子どもたち、その親、大人と共に、自然豊かな熊野の地域社会のつよさと、しなやかさが、これからの地域づくり、人の育ちの鍵となると思っています。熊野の子育て・子育てのありようが少子高齢社会の一つのいいビジョンとなるように、インクルーシブな熊野を願いながら、本日の卓話はこれで結びとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

ニコニコ BOX

会長…黒瀧君、本日卓話ありがとうございます。

井上 登…黒瀧様、今日は卓話ありがとうございます。

森本 衛…黒瀧さん卓話ありがとうございます。

庄司 幸…黒瀧様、卓話ありがとうございます。

田端稔充、大崎順敬、山門弘毅、赤阪俊一、片岡博也、斎藤友紀、清水康仁、森本健一

…黒瀧様ありがとうございます。ビールいただきました。

出席報告 井上 登 出席委員長

会員数 33名 出席数 19名 欠席数 14名

出席率 57.57% 修正 72.72%

次回第 2249 回例会

11月14日：会員卓話

